患者さんと中央市民病院をつなぐ情報誌

SHIOKAZE Magazine

し / お / か / ぜ / 通 / 信

Vol. 64
2026 AUTUMN



Contents

P1-5 看護師インタビュー
P6 看護部長就任のごあいさつ
P7 整形外科部長就任のごあいさつ
P8 熊本地震DMAT
P9 放射線治療センターのご紹介
P10 LINE案内
P11 ご寄付のお願い

Shiokaze Magazine

その人らしい療養生活を近くで支える

心が通い合う病棟看護



ベッドサイドで治療や回復を支援するだけでなく、患者さんの不安や悩みに寄り添い、一人ひとりに最善のケアを届けている病棟の看護師たち。仕事に対する姿勢やその魅力、やりがいについて聞きました。

Q. 看護師になろうと思ったきっかけはなんですか？

Sさん 小学生の時に「将来は何か資格を取ろう」と思い、多くの人に必要とされ、女性が一生続けられる仕事について考えました。その中で「生まれて死ぬことは、すべての人に共通している」と気づき、人生の最期を支えたいと看護師の道を選びました。当時は病気がちで、通院先の看護師さんがハツラツと働く姿にも影響を受けたのかもしれません。

Nさん 肩もみが得意だったことから、最初は鍼灸師や理学療法士に興味を持ちました。高校の授業で医療職について調べるうちに、より魅力を感じるようになったのが、活躍の場が広く多くの人の役に立てる看護師でした。「身内に看護師がいてくれたら心強い」という両親の言葉にも背中を押され、看護専門学校に進学しました。

看護部
7階東病棟





Q. 看護師の仕事にやりがいを感じるのはどんな時ですか？

Sさん スタッフ一人ひとりが自分らしい看護を実践できるよう、サポートすることが私の役割です。業務の中で生じる悩みに共に向き合い、それぞれが納得できる看護を見つけられた時は、自分のことのようにうれしくなります。

Nさん 外科では、患者さんが回復していく過程を支えられることがやりがいでした。一方で、治療が難しい患者さんの緩和ケアや終末期に携わり、精神的につらくなることも。そのような中でも、患者さんやご家族からの「ありがとう」の言葉に心が救われ、看護師をしていてよかったと実感しました。

Q. 患者さんと接する際に心がけていることはなんですか？



Sさん 入院中の困り事や退院後の生活に関する心配事に常に気を配り、必要な支援につなげられるよう心がけています。看護をする上で大切にしているのは、「患者さんがどうしたいのか、どうなりたいのか」を最優先すること。それを実現するために自分には何ができるのかを考え、行動に移すようにしています。



Nさん 術後の回復に重要なリハビリでは、体調や気持ちの面から積極的になれない患者さんに対して、少しでも前向きに取り組んでもらえるよう言葉がけを工夫しています。また、医師からの説明に加えて看護師からも分かりやすい言葉でリハビリの必要性を伝え、患者さんの理解を深めています。

Q. 7階東病棟ではどのような役割を担っていますか？

Sさん 7階東病棟は、主に泌尿器科や呼吸器外科・内科の入院患者さんに、術前・術後のケアや内科的治療への対応、終末期の療養支援などを行っています。私は今春より師長として、患者さんにより良いケアを提供できる環境づくりを進めています。また、入院から転院・退院後まで見据えた切れ目のない支援にも力を注いでいます。

Nさん 私も今春から主任となり、師長と共に看護の質の向上に取り組んでいます。外科での経験が長く、中でもがん患者さんと関わる中で培ったスキルには自信があります。まずは新しい環境に慣れ、継続的な学びを大事にしながら、自分の経験や知識をスタッフにも共有していきたいと考えています。



Q. 看護師としての成長を実感したことはありますか？

Sさん スタッフが笑顔で仕事に励んでいる姿を見ると、安心して働ける環境を整備できているのかなと自信になります。当院のような大きな病院では、部署によって扱う疾患や対応する患者さん、求められる能力もさまざま。8つの部署を経験してきた私も、まだまだ学びや成長の機会があると感じています。

Nさん 産休から職場に復帰した時、仕事と家庭を両立しながら働く先輩の姿に憧れ、自分なりにがんばってきました。時を経て、尊敬する先輩から「がんばっているね」と声をかけていただき、目標としてきた人に認めてもらえたことで、自分も少し成長できたのかなとうれしくなりました。



Q. 日々の業務で大変だと思うことはありますか？



Sさん 当院では365日24時間体制で多くの救急・急性期患者さんを受け入れているため、スタッフは目まぐるしく対応に追われ、落ち着く時間はありません。それでも、必要な医療を必要な人に届けることが私たちの使命だと胸に刻み、支え合いながらチームワークで乗り越えています。

Nさん 泌尿器科では1日に複数の手術が行われ、術後すぐに病棟へ戻ってこられる患者さんへのスムーズな対応が求められます。寝たきりの患者さんへのケアなども重なり、スタッフの負担が大きくなることもありますが、互いに連携しながら取り組んでいます。



Q. どのような看護師になりたいですか？



Sさん 当院で働くことに魅力を感じながら、長く自分らしく活躍する人材を育成できる看護師になりたいです。当たり前に行っている仕事も、「患者さんにとってどんな意味があるのか」を丁寧に伝え、スタッフのやりがいやモチベーションを高めていきたいです。

Nさん 新卒で当院に入職し17年目となった今も変わらず看護の仕事が好きで、看護師として働くことに誇りと喜びを感じる毎日です。同じ思いを持つ仲間が一人でも増えるよう、現場のスタッフに寄り添える主任になることが目標です。

看護師を目指す方へメッセージをお願いします。



看護師はこれからも多くの人に必要とされる、なくてはならない存在です。また、専門性を極める道もあれば、多様な分野を経験して視野を広げることもでき、自身の成長にもつながる魅力的な仕事です。目標を見つけ看護を深めていく楽しさを、共に味わいませんか。

仕事で培った看護の知識や技術は、自分自身や身近な人の健康を支える上でも役立ちます。私も父の看護と看取りを通して実感しました。患者さんと医療従事者という関係にとらわれず、人と人との関わりを大切にする看護を、ぜひ一緒に実践していきましょう。



看護部長就任のごあいさつ



この度、神戸市立医療センター中央市民病院の看護部長を拝命いたしました、永井優子です。長年当院で看護師として歩んできた私にとって、この歴史ある病院の看護の重責を担うことに、身の引き締まる思いでございます。

当院は、救急医療やがん医療、お産や育児を支える周産期医療など、高度な専門医療を確実に提供し続ける「神戸市民の最後の砦」としての役割を担っています。平時はもちろんのこと、災害時においても地域の皆様の安心を支える基幹病院として、これからも多職種と密に連携し、患者様やご家族の心に寄り添う温かいケアを実践してまいります。

看護部としては、救急、がん、周産期に加え、循環器病や脳卒中といった専門領域において、根拠に基づいた質の高い看護を提供することを目指します。私たちが大切にしたいのは、患者様やご家族の「生活の質」を支えるケアです。また、医師や薬剤師、栄養士、リハビリスタッフなど多職種の専門家が知恵を出し合い、お一人おひとりに最適なケアを提供する「チーム医療」が私たちの大きな強みです。

病院は、地域の皆様に支えられて成り立つ場所です。これからも皆様のご意見に真摯に耳を傾け、「ここでなら安心して任せられる」と心から思っていただけるような、安全で質の高い医療とケアにスタッフ一丸となって力を尽くしてまいります。新しい体制となりました当院を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

部長 永井（ながい） 優子（ゆうこ）

整形外科部長就任のごあいさつ

2026年6月1日付で整形外科部長を拝命いたしました岡本健と申します。私は但馬にルーツがあり、京都で生まれ育ちました。京都大学を卒業後、島田市民病院、神戸市立中央市民病院で専門研修をさせていただき、京都大学大学院で学位を取得しました。北野病院で脊椎外科、京都大学病院で骨・軟部腫瘍の臨床と研究に、大津赤十字病院で整形外科部長として関節外科、脊椎外科、腫瘍整形外科、外傷外科に従事しました。このたび神戸の基幹病院の整形外科に戻る機会を与えていただき、喜びとともに大きな責任を感じております。

当院の整形外科は大きく3つの柱があり、それぞれセンターとして機能しています。

1.外傷外科　神戸の救急医療の最後の砦として骨折を中心に24時間体制で受け入れています。「外傷ホットライン」で救急隊や地域の医療機関から直接整形外科医が連絡を受け、迅速で質の高い外傷医療の提供に務めています。

2.関節外科　股関節、膝関節のみならず、足関節、肩関節、肘関節、指関節などほぼ全ての関節に対して専門医による人工関節が可能であり、その他肩腱板縫合、膝半月板縫合、靭帯再建など様々な関節疾患に対応できる体制を整えています。

3.脊椎外科　変性脊椎疾患に対する手術、脊椎外傷に対する手術、癌の脊椎転移に対する手術等広範な脊椎手術を行っています。

これ以外にも手の外科、そして私の従事しておりました骨腫瘍、軟部腫瘍の診療を加えることで、より「断らない整形外科」「皆様に安心して治療を受けていただける整形外科」としての体制が整えられております。

整形外科の基礎を学ばせていただいた神戸の地にご恩返しができるよう、誠心誠意尽くす所存ですので、皆様どうかよろしくお願い申し上げます。



部長 岡本 健（おかもと たけし）

令和9年熊本地震にDMATを派遣しました。

令和9年熊本地震にDMATを派遣しました。
期間は2026年8月4日～10日、派遣職員は以下の4人です。

有吉 孝一（ありよし こういち）	医師	救命救急センター
上山 瑠美子（うえやま るみこ）	看護師	GICU/HCU
福永 千絵美（ふくなが ちえみ）	看護師	EICU/CCU
西原 浩真（にしはら ひろまさ）	業務調整員	リハビリテーション技術部



爆発したイオンモール熊本前の献花台


日本製紙八代工場の折れた煙突



帰任式ならびに活動報告会にて

被災地の氷川町で仮設住宅往診、物資搬送、特別養護老人ホームの支援、本部活動指揮を行いました。

CPAP（持続陽圧呼吸療法）を装着できていない被災者宅へ往診に行ったが、実際には3人の被災者がいた。医療だけでなく生活環境にも課題があった。「生活そのものが被災している」ことに気づき、「医療だけではなく、生活そのものを支える必要性」を感じた。 **上山瑠美子**



「支える側を支える」DMAT活動
被災した施設で、利用者さんへの看護・生活支援とともに、施設職員の負担軽減や休息確保に取り組みました。日々の看護で培った力を活かし、現場の皆さんとともに「支える側を支える」活動を行い、継続的な支援につなげました。 **福永千絵美**

業務調整員として、被災地の情報を整理し、必要な支援を本部や関係機関につなぐ役割を担いました。また、特別養護老人ホームでは、理学療法士として入所者の健康状態や体機能、動作能力を評価し、その結果を踏まえて、安全な移動や入浴方法について看護師・介護士と連携して支援しました。今回の活動で得た経験や課題を院内で共有し、今後の災害時に、より迅速かつ適切な支援につなげていきます。 **西原浩真**

より正確に、よりやさしい放射線治療
放射線治療センターのご案内

当院の放射線治療センターでは、放射線治療医、診療放射線技師、医学物理士、看護師などが力を合わせ、幅広いがんの治療にあたっています。年間約700人の患者さんが治療を受けています。

当センターでは、2022年から、3台の高精度放射線治療装置(Varian社製「TrueBeam」)を含め、治療計画用のCT装置や、体の中から放射線をあてる密封小線源治療装置を順次更新してきました。2026年7月末には、病院移転時から使われてきた最後の1台を新しい装置に入れ替え、主な放射線治療に関係する装置すべてが新しくなりました。



今回更新した放射線治療装置には、Varian社の最新の撮影システム「HyperSight」が搭載されています。HyperSightは、治療直前に、従来よりも鮮明なCT画像を短時間で撮影できるシステムです。この画像で病気の場所や周りの臓器の位置を確認し、治療位置のずれを修正することで、より正確に放射線をあてることができます。

また、VisionRT 社の「AlignRT」も導入しました。これは、カメラを用いて体の表面をリアルタイムに確認し、位置合わせを行うことができるシステムです。症例によりますが、これまでの皮膚に印をつける方法だけでなく、印をつけないマーカーレスでの位置合わせにも対応できるようになり、皮膚の印による患者さんの負担軽減につながります。

このほか、正常な臓器への放射線をできるだけ抑える強度変調放射線治療 (IMRT) や、少ない回数で病変に集中的に放射線をあてる定位放射線治療 (SBRT) などの高精度放射線治療も数多く行っています。

患者さんが安心して治療を受けられるよう、「より正確に、よりやさしい放射線治療」を目指しています。



LINEはじめました

LINE 公式アカウント はじめました！

お友達登録でできること

院内Wi-Fi
院内で使えるWi-Fiの
パスワードが確認できます

WEB予約変更
Web予約変更が
LINEからできます

医療費後払いの登録・各種情報
医療費後払いの登録や、
各種情報をお届けします

登録はかんたん2つの方法

QRコードで検索

スマホカメラを起動し、下記QRコードを読み込む

「友だち追加」で登録完了

または

ID検索で登録

LINEアプリを起動
ホーム画面右上の友だち追加をタップ
検索をタップ
下記IDを入力し検索アイコンをタップ

@267zwdae

追加をタップで登録完了

Instagram、YouTubeも
やっています。

フォロー、チャンネル登録を
お願いします。

CHUO_KCHO Instagram

YouTube

ご寄付のお願い

当院はこれからも地域の皆様へより良質で安全な医療を提供していきたいと考えています。皆様には寄付という形で当院の運営に共に携わっていただきたいと思っておりますので、金額の多寡にかかわらずご支援を賜りますようお願い申し上げます。

神戸市立医療センター中央市民病院 病院長 貝原（かいはら） 聡（さとし）

ご寄付の流れ

1. ご寄付のお申込み

「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、下記の宛先へご提出ください（郵送・FAX・持参どれでも可）。寄付金の納付先をご連絡させていただきます。また、インターネットでのお申込みも可能です。
「現金」、「銀行振込み」、「クレジットカード」のいずれかで可能です。また、遺贈によるご寄付も承っております。

詳細はこちら▲

2. 寄付受納書のご送付

寄付受納書は、口座への入金を確認後に発行させていただきます。
インターネットからクレジットカード決済をお申込みの場合、クレジットカード会社から当機構への入金を確認した日付以降となり、通常2～3か月を要しますので、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ 経営企画課 TEL：078-302-4321／FAX：078-302-7537 E-mail：kifu@kcho.jp

寄付金で購入いたしました



ヘパフィルター



外来用の椅子

寄付をいただいた皆様

（令和8年4月～令和8年9月）

多くの励ましやご支援をありがとうございました。
ご寄付をいただきました方のお名前を、感謝の気持ちとともにここに掲載させていただきます。

Rupp Geoff	七條 文俊	七條 仁紀	藤尾 純也	小川 泰子	清水 剛
白石 実	石原 美智恵	蒋 艶園	髙谷 多香子	林 国勝	大石 博司
藤見 昭代	飯島 脩	井内 智映子	住野 英生	仲野 嘉宏	フジモト マリ
竹野 潤	宮本 一夫	吉岡 陽一	安田 安亘	河本 加代子	

えびしまこどもとアレルギーのクリニック ／ はまなすの会 ／ 株式会社ジャヴァ 代表取締役 細川かおる
日清鋼業株式会社 ／ 医療法人社団 直太会 母と子の上田病院 ／ 北区医療従事者有志 ／ LAMPS株式会社
安藤忠雄建築展実行委員会 代表理事 安藤 忠雄 ／ NPO法人クレメンティア 理事長 黒木 大輔

（順不同掲載）

SHIOKAZE Magazine しおかぜ通信 Vol.64 2026 AUTUMN
編集・発行：神戸市立医療センター中央市民病院 経営企画課
2026.10 発行

地方独立行政法人 神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院
Kobe City Medical Center General Hospital
〒650-0047 神戸市中央区港島南町2丁目1-1
TEL：078-302-4321
http://chuo.kcho.jp